

# 九州兼喜

2015.1

No. 122

## 賀 春



謹んで新年の  
ご祝詞を申し上げます

平成27年元旦



# 年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。清水建設九州支店の皆様、又、九州兼喜会の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えになられましたことと、謹んでお慶び申し上げます。昨年は皆様方に多大なる御指導、御鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

月日が経つのは早いもので、私が九州兼喜会の会長に就任させて頂いてから5回目の新年を迎えることとなりました。正に光陰矢のごとし。これもひとえに、清水建設九州支店山地支店長様、又、支店幹部、社員の皆様の、九州兼喜会の運営に対する多大なるご理解、ご支援の賜物であり、この場をおかりして重ねて厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、全国的に自然災害が多発した一年でした。広島での土砂災害をはじめ、伊予灘、長野の大型地震、御嶽山の噴火、また九州でも阿蘇山が噴火するなど、予断を許さない状況にあります。ここ数年、毎年のように自然の猛威に晒され、非常に憂慮する状況にあります。経済に目を向けますと、消費増税の影響があり、前半は駆け込み需要で沸いたものの、後半は買い控えという、山から崖へというような不安定な経済状況でした。全般的には株価、物価も上昇基調にあったという事ですが、まだまだ中小企業をはじめ、国民全体の実感としては景気がよくなったとは言い難い一年だったように思います。

さて、建設業界におきましては、正に「異常事態」となっております。昨年も多くの仲間達がこの業界を去って行きました。ある社長が言いました。「仕事はたくさんあるが会社をたたむ。」労務不足によるコストの激増の為であります。ある若い職人が言いました。「今日で辞めます。」過酷な労働条件のわりには、休暇もなければ、処遇面でも魅力がないからであります。昨今の入札不成立や工期の遅れ、計画の変更・延期などの根本的な理由は全てここにあると思います。そして、こうなる事は何年も前から分かっていたことであります。我々は元請・下請、業種や職種を越えて、一日も早く一致団結しこの問題に取りかからなければなりません。

我が九州支店、山地支店長様は、着任早々、魅力ある建設業界をつくるために、青年たちが夢や希望を持てるようになるために「西海道夢プロジェクト」を提唱され、我々専門工事業者や職人、またその家族にいたるまでスポットライトをあてて下さり、いち早くこの「異常事態」打開の為にご尽力を多分に頂いております。その中で特に、九州兼喜会の青年部に対しては、一方ならぬご高配を賜っており、感謝の念に耐えられません。青年部は

九州兼喜会  
会長

篠森 義晴



年に一度、現場研修会を実施しており、今年は山地支店長様のご紹介を頂き、新潟の消防局中央消防署の現場と、清水建設様が長年に渡って施工された「久保田」というお酒でご高名な朝日酒造様へ見学に行かせて頂くこととなりました。なんと山地支店長様もご同行頂けるということでしたので、私も一緒に行かせて頂きました。研修会の中で、朝日酒造様を見学させて頂いた時のことであります。朝日酒造の吉田常務様が自ら、新社屋や酒蔵をご案内頂き、「酒造り」を大変解り易く、且つ心を込めてご説明頂きました。そのご説明の中で、正に建設業と相通じるものがありました。「お酒は水と米でできる」というものです。非常にシンプルな言葉でしたが、全てが凝縮された言葉でした。酒の品質は原料の品質を越えられない。酒造りは米づくり、物造りは人づくりであると。そして、出来上った最高の酒を酌み交わしながら、心を酌み交わしてほしいと吉田常務様は言われました。大変感銘を受けました。私たちは原点に帰らなければなりません。建物を早く、安く、効率的に造ることばかり考えてきました。物造りは人造り、建物造りは職人造りであります。物は人で建つのです。私達は、最近仲間たちと、職人たちと、じっくり心を酌み交わしているのでしょうか？改めて、魅力ある業界にし、人々が笑顔で集まってくるような業界にしなければと思う次第であります。

さて、昨年は九州支店内におきまして、例年がない程の災害を起してしまい、多大なるご迷惑をおかけしました。災害の原因をみますと、ほとんどが行動災害であります。誰かが注意すれば、誰かが一言いってあげれば防げた事故ばかりであります。

今年は未年です。ひつじは、常に集団で行動しております。家族を大切に、仲間を思いやる能力に非常に長けているそうです。このような理由から、未年は、協調性のとれた安定した一年になると言われております。ぜひ、現場で働く全ての仲間たちが家族のように思いやり、相手の為に厳しく注意しあえる心の通じた現場を造り上げ、災害のない安定した一年となりますよう、心を込めて、気を引き締めてまいります。

我々九州兼喜会は、一枚岩となって、明るく元気に様々な諸問題を乗り越え、清水建設様の社業に今まで以上に貢献できるよう、精一杯邁進する所存であります。何卒、今後ともご指導、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。そして、皆様方にとりまして、2015年が素晴らしい一年となりますようご祈念申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。本年も何卒、宜しく願い申し上げます。

# 年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。兼喜会の皆様方におかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、一方ならぬご支援・ご協力をいただき、こころより感謝申し上げます。本年も、何卒よろしく願い申し上げます。

私も九州支店着任以来、三度目の新年を迎えることとなりました。その約三年の間、九州兼喜会の皆様とは各所で深いコミュニケーションを取らせていただきました。昨年を振り返っても、総会・役員会などの定例会議のほかにも各地区の安全大会やボランティア活動に参加させていただいて交流を図り、また多くのご意見を賜りました。そのご意見のひとつひとつが支店の活動のうえで大きな力となりましたことを深く感謝申し上げます。また、ソフトボール・地引綱やフットサルといった仕事以外での場を共に過ごしたことも、いろいろな世代で九州兼喜会と清水建設が理解しあえる良い機会となったと確信しております。

昨年は、全国連合兼喜会支部長会議が福岡で開催されたこともあり、その輪もさらに広がりました。青年部の研修で北陸兼喜会・新潟青年部との意見交換会を開催し、懇親も深めることが出来ました。また、今年も広島兼喜会と関門海峡周辺での意見交換・懇親会を計画しております。北九州・福岡の支部のみならず、多くの方々に参加していただければと思います。建設業界にも明るい話題が増えたとは言え、我々の目前には、新卒の入職者数減少や若手技能者の建設業離れからの労務不足、社会保険加入問題や女性の活躍といった大きな課題がいくつも横たわっているのも事実であります。このような課題は、ひとつひとつの会社や業界が単独で解決するには大きすぎる課題であります。兼喜会の方々が業種や地域を越えて語り合い解決の道筋を探っていくことが、兼喜会としてのひとつ

清水建設(株) 九州支店  
執行役員支店長

山 地 徹



の意義なのではないかと思っております。もちろん、その根底にあるのは、九州兼喜会と清水建設九州支店とが誇る信頼と団結であることは語るまでもありません。今年も、さらなる高みを目指して信頼と団結を深め、ともに夢を語り合いたいと思います。

例年の通り、新年にあたり安全についても一言触れさせていただきます。兼喜会の皆様のおかげで、昨年度の平成25年度、九州支店においては4日以上 の休業災害が1件も発生せず、九州支店災害防止協議会を代表して篠森会長が安全衛生活動優秀賞を受賞されました。これも、兼喜会や各地区の災害防止協議会の皆様方が作業所において地道に災害防止活動に取り組んでいただいた結果と、篤く御礼申し上げます。しかしながら、今年度に入り休業災害が5件発生して、この新年を病院で迎えられた方もおられます。清水建設全社、建設業界全体の安全成績も芳しくありません。昨今の事故原因を探ってみると、不安全・不完全な状況に対する個々人の感性の不足が、その奥底に潜んでいるような気がしてなりません。そこで、先月より一人KYの徹底をお願いすることとしました。その場その場に応じた個々の危険予知を日々の習慣にして、自分の身は自分で守る。一歩進んで、廻りの仲間の身も守る。今年も、この一人KYを全作業員に浸透させる活動に重点を置きたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。一人KYの徹底で、まずは、年末年始労働災害防止強調運動の期間である1月15日までを、そして今年度いっぱい無事故無災害で乗り切りましょう。

終わりになりますが、九州兼喜会各社様の益々のご隆盛とご繁栄を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしく願い申し上げます。

# 第23回 清水建設全国連合兼喜会 後継者育成研修報告書

九州兼喜会 青年部 朝日 潤  
株式会社 朝日

平成26年11月20日(木)～21日(金)に東京銀座、コートヤード・マリオネット銀座東武ホテルに於いて、清水建設全国連合兼喜会第23回後継者育成研修が開催され、九州支部より2名が参加致しました。

初日は東京兼喜会青年部 多賀谷充部長の司会のもと、全国連合兼喜会 青木茂副会長より「人手不足やIT化の進む変革の中、専門業者は何を求められているかを理解した上、将来の展望を追及し、建設業を支える若い力を涵養させる事が目的である。」と本研修会の主旨説明がありました。

次いで全国連合兼喜会 中橋博治会長より「現在、建設業は労務不足・社会保険未加入・重層下請けの解消などの問題により、変革の時期に突入している。建設業にとって重大な問題であり、清水建設と共に解決に取り組むべき。」との言葉を頂きました。弊社としても現状を踏まえ、世の中の流れを傍観するだけでは無く自ら積極的に行動していく時期に差し掛かっているのだと再認識し、解決に迅速に取り組むべきだと感じました。また安全についても言及され「重篤災害が増加している。安全につける特薬は無く、自主パトロールや声掛けの実施などの日常的な対策で災害を減らしていく事が大切。」とのメッセージを頂き、安全に対する取り組みの強化を実行に移す事を考えました。

その後、清水建設4名の幹部より、ご講和頂きました。最初に常務執行役員関東支店長 岩川千行様よりご講和があり、

- ①「中期経営方針2014について」
  - ②「オリンピックまで、そしてオリンピック後」
  - ③「ご自身の経験に基づくお話」
  - ④「現業における兼喜会とのコミュニケーションについて」
- の四つの事項についてお話しを頂きました。

①「中期経営方針2014について」はオリンピック後の建設投資は冷え込むと予測した上で、

1. 技術力・提案力の一層の強化を図り、震災復興・社会基盤整備など安全・安心な社会の実現に貢献する
2. 増加の見込まれる工事量にも確実に対応できる施工体制を構築し、品質・安全の確保と行程管理の徹底を図る
3. ものづくり意欲にあふれ、社会・顧客からも信頼される逞しい人材を育成する

以上を対策基本方針として利益拡大を目指す事。

②「オリンピックまで、そしてオリンピック後」では主な会場

の配置計画や施設の説明、そしてオリンピック終了後の使用方法について。

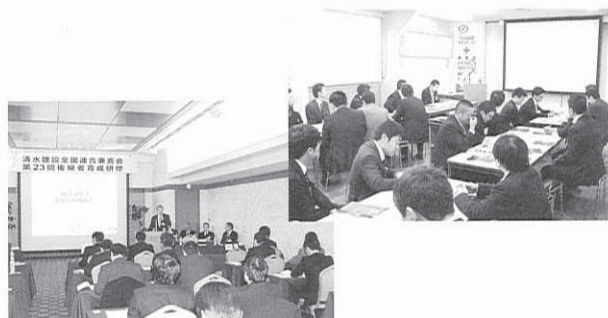
- ③「ご自身の経験に基づくお話」では、ご自身の原点となった帝国ホテルインペリアルタワー新築工事を例に挙げ、人と人との関係作りの大切さを教えて頂き、人間として経営者としては、辛い事があってもへこたれず立ち向かう強さとする「鈍感力」が大事だと教わりました。
- ④「現業における兼喜会とのコミュニケーション」については、清水建設と兼喜会を車の両輪と例えられ、両者が共に発展し世の中に貢献する為にも、清水建設と兼喜会との対話が重要だという事について。

そして最後に厳しい状況が続くかもしれないが、「明るく、元気に、笑顔で、粘り強く」をスローガンに共に頑張ろうとのお言葉を頂きました。この講和を拝聴し、建設業が変革の時代へと移行行く中、清水建設と兼喜会が更なる結束を高め、共に問題解決にあたる事の重要性を感じました。

次に安全環境本部安全部長の神田道宏様より労働災害の発生状況の分析と清水建設全社安全衛生計画についてご講和を頂きました。大手五社の災害統計、要因分析の説明があり、内容として災害の48%が躯体業者によるものであり、平成24年の41%に比べ増加している事と、50代60代の作業員の事故割合が39%を占める大きな割合であると言う事でした。弊社の作業員も高齢化しており、かつ躯体業者である為、深く考えさせられました。全社安全衛生計画については、取引業者の自主管理能力の向上を念頭にグリーンファイルシステムの推進・施工体制台帳の整備・災害発生時のリスク管理を行い、事故を防止する事が大切だとの言葉を頂きました。

そして安全環境本部環境副部長 白鳥栄司様より環境についてご講和を頂きました。全産業の産業廃棄物の2割を建設業が占め、その内78%が瓦礫に該当する為、

- ①モニタリングの強化
- ②地域固有の課題の促進
- ③他の環境対策との統合的展開の理解促進
- ④工事前段階に



おける発生抑制の促進を強化し、最終処分率を国の目標4%以下に対し3.7%以下を目標とする為にも、職長会を軸として作業所と一体となった活動で建設副産物の適正処理を実行していく事が重要とお言葉でした。

最後に調達・見積総合センター所長 三澤正俊様よりご講和を頂きました。まず始めに建設業を取り巻く環境について、建設業就業者数の減少・高齢化が進み2020年には-34.2%の減少予測であり、①国や業界が若年者の入職促進に努めている。②建設投資額が2010年度を底に回復しつつある。③年金支給開始年齢が引き上げられ将来的にさらに引き上げられる可能性。の三つの補正を勘案しても-5.9%の減少予測である。また年間賃金総支給額は、全産業524万円に対して建設業は395万円と少ない現状。この現状に対し日建連や国土交通省からの要請が有り、①賃金の改善(20代450万円、40代600万円) ②社会保険加入対策の推進 ③重層下請け構造の改善 ④労働環境の改善 ⑤い手の確保(女性活躍・若年者入職・外国人活用) ⑥建退共制度の拡充 ⑦技術の見える化 ⑧技術の伝承に関する支援などを求めている中、清水建設としても山積み活動を主体とした情報の共有・連携強化・信頼関係の構築を図り、議論の土俵を整え、一緒に解決する

という意識を醸造したうえで、社会保険未加入・重層下請け構造解消という難題に対し現業・調達・協力業者一体となって難題に立ち向かうとの事でした。一社だけの力では解決は難しい為、清水建設と兼喜会の力を合せて解決する為にも、普段よりコミュニケーションをとり、情報交換の出来る信頼関係の構築が必要だと再認識致しました。

研修二日目には東京都江東区木場2丁目の清水建設東京木工場を見学させて頂きました。井手工場長の挨拶の後、プロモーションビデオを拝見させて頂き、その後3班に分かれて工場に入り、そこで木の素晴らしさや造作の奥深さを知る事が出来ました。

この工場見学を終え東京木工場の130年の歴史と建築技術に負けない木の技術がある事に驚き、また社員の方々が技能大会に参加し受賞されている話を聞き、向上心と努力の結果だと感銘を受けました。

今回、初めて研修に参加させて頂いた事で清水建設の歴史と技術力を実感し、この建設業の変革の時期に対し清水建設と兼喜会が一体となって問題解決に取り組まなければならないと痛感致しました。

最後に、この様な貴重な研修を企画して下さい、また参加させて頂いた事に対し深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。

九州兼喜会青年部

## 秋の研修会報告

福岡支部 古賀宏之

平成26年11月14日(金曜日)に、清水建設(株)九州支店より山地支店長様、九州兼喜会より篠森会長、九州兼喜会青年部は各支部より28名、合計34名が参加し、秋の研修会を新潟県で開催させていただきました。

まず初めに、新潟県長岡市朝日に本社・工場を置く、創業1830年(天保元年)の朝日酒造(株)様の見学をさせていただきました。清水建設(株)長岡営業所井野所長様案内のもと、本社会議室に集合しました。そこで、朝日酒造(株)吉田常務様のご挨拶を頂いたあと、PRビデオを鑑賞し、工場内を見学しました。見学の中で、吉田常務様は「いい酒はいい水といい米又、長い時間をかけた熟成が大事です」との説明があり、徹底した品質管理がされてありました。私たちの仕事にも通ずるものがあり、見習うところが多くありました。又本社棟の景観もすばらしく、改めて清水建設(株)様の

技術力の高さを思い知りました。次に、新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事を見学させていただきました。会議室に集合し、小嶋所長、小川主任より現場概要の説明がありその後現場見学にいきました。現場が免震構造の為、主に免震ピットを見学しました。コストも含めた技術提案が多くされており、有意義な現場見学となりました。

その後、懇親会会場へ行き、北陸兼喜会青年部との意見交換会をしました。北陸兼喜会青年部からは石田副部長をはじめ6名、九州兼喜会青年部から森部長他6名、合計12名で行いました。青年部どうしの交流、清水建設様との交流、労務状況など活発な意見交換が出来ました。

最後になりましたが、今回の研修会に多大なご協力を頂きました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



# 兼喜会議事録

## ○理事会

平成26年8月7日(木) 15:30～

場 所 兼喜会事務所

### 【議題】

1. 全九州役員会の件
2. 全国連合兼喜会支部長会議の件
3. 青年部
4. その他

## ○理事会

平成26年10月2日(木) 12:00～

場 所 兼喜会事務所

### 【議題】

1. 全九州役員会の件
2. 全国連合兼喜会支部長会議の件
3. 九州兼喜会臨時総会の件
4. 青年部
5. その他

## ○理事会

平成26年11月6日(木) 12:00～

場 所 兼喜会事務所

### 【議題】

1. 全九州役員会の件
2. 九州総会の件
3. 清水建設全国連合兼喜会第56回定時総会（東京大会）の件
4. 青年部
5. その他

## ○役員会

平成26年9月5日(金) 14:00～

場 所 嬉野温泉 大正屋

### 【議題】

1. 全国連合兼喜会支部長会議の件
2. 平成26年九州兼喜会、災害防止協議会中間報告の件
3. 瀬戸内オープンの件
4. 青年部
5. その他

## ○役員会

平成26年12月1日(月) 16:00～

場 所 西鉄グランドホテル

### 【議題】

1. 12月度役員会の件
2. 清水建設全国連合兼喜会第56回定時総会（東京大会）の件
3. 平成27年九州総会の件
4. その他

## ○西日本地区青年部意見交換会

平成26年8月29日(金)

場 所 支店5階 会議室

## ○青年部秋の研修

平成26年11月14日(金)

場 所 新潟県 朝日酒造、  
新潟消防局中央消防署

## 諸 行 事

### 支店との懇親地引網

- 8月30日(土)
- 初音旅館



### 清友会懇親会

- 11月10日(月) 18:00～
- ソラリア西鉄ホテル

発行所 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル  
清水建設九州支店内 九州兼喜会

印刷所 川本印刷株式会社  
TEL 092-591-5110